

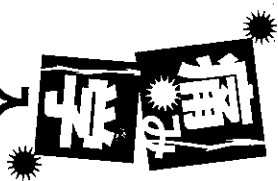
地域ニューズ

口のなかに痛みが続く場合、歯や歯周組織以外にもさまざまな病気が隠れていることがある。他の部位であれば、しばらく動かさなければいいとされている。口には薬で軽くなることが多く、口はそれほど動かしなくても食事や会話などで動かさざるを得ない部位であり、動かさずに日常生活を送るなんて不可能だ。口は生活と大きく関わり、変化に敏感に反応する部位なのである。今回は、この口腔内の痛みの原因となる病気をいくつか紹介する。

①パーニングラウマ症候群
「口腔内に品質的な異常を伴わないにも関わらず痛みを生じ、口内という病気である。原因が不明の場合には、一次性、局所や全身の異常にと考えられる場合は「一次性」という。

一次性は閉経前後の神経痛、一回強い女性で多くみられる」とから、「身体症状症」との関連連が疑われている。さらに味覚神経の障害、さらに奥にある中枢

口のなかの痛み

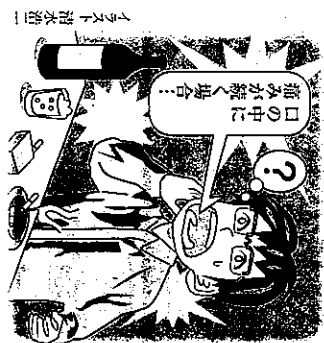


◆ 72 ◆

歯や歯周組織の異常だけでは無い

「口腔内の奥、咽頭、喉頭」にさまざまな痛み、腫れ、かゆみ、違和感がある」として、さまざまな異常感がある」として、「ドクスター・シヨップ」を重ねておられる方が少なくない。「通常の耳鼻咽喉科の診察では、訴えに見合ったような器質的異常が局所に見あたらない」とされているが局所的、全身的に相殺されてはいかがでしょうか。

局所的なものでは咽喉炎の



イラスト提供

頻度が高く、飲酒や喫煙などの生活習慣も関係する。なお、異常感に咽頭痛や、食べ物を飲み込む際の嚥下障害などが加わっている場合には、「下咽頭がん」を疑って検査を進める必要がある。

③口内炎
口腔粘膜の痛みの多くは炎症で起る。口内炎にはカタル性、剥離性、アフリカ性、潰瘍性、歯肉炎などがあり、食事によって焼けるような痛みを引き起こす。つかいとともに、副腎皮質には唾液腺機能の問題による二次性、その他、真菌の一種カンジダの感染や歯科処置で用いる材料に対するアレルギーが関与していることもある。一次性的なものに対しては心理的なアプローチ、二次性では原因治療が中心となる。

②咽喉頭異常感症
「口腔の奥、咽頭、喉頭」にさまざまな痛み、腫れ、かゆみ、違和感がある」として、さまざまな異常感がある」として、「ドクスター・シヨップ」を重ねておられる方が少なくない。「通常の耳鼻咽喉科の診察では、訴えに見合ったような器質的異常が局所に見あたらない」とされているが局所的、全身的に相殺されてはいかがでしょうか。

局所的なものでは咽喉炎の

頻度が高く、飲酒や喫煙などの生活習慣も関係する。なお、異常感に咽頭痛や、食べ物を飲み込む際の嚥下障害などが加わっている場合には、「下咽頭がん」を疑って検査を進める必要がある。

③口内炎
口腔粘膜の痛みの多くは炎症で起る。口内炎にはカタル性、剥離性、アフリカ性、潰瘍性、歯肉炎などがあり、食事によって焼けるような痛みを引き起こす。つかいとともに、副腎皮質には唾液腺機能の問題による二次性、その他、真菌の一種カンジダの感染や歯科処置で用いる材料に対するアレルギーが関与していることもある。一次性的なものに対しては心理的なアプローチ、二次性では原因治療が中心となる。

②咽喉頭異常感症
「口腔の奥、咽頭、喉頭」にさまざまな痛み、腫れ、かゆみ、違和感がある」として、さまざまな異常感がある」として、「ドクスター・シヨップ」を重ねておられる方が少なくない。「通常の耳鼻咽喉科の診察では、訴えに見合ったような器質的異常が局所に見あたらない」とされているが局所的、全身的に相殺されてはいかがでしょうか。

局所的なものでは咽喉炎の

森本昌弘（おりもと・まさひろ）
大阪なんばクリニック（06・6648・8930）本部長・院長。平成元年、大阪医科大学大学院修了。同大講師などを経て、22年から近畿大学医学部麻酔科教授。31年4月から現職。日本ペインクリニック学会常務委員。



7月3日は休載します。